

2023 年度東京医科大学医学部看護学科 学校推薦型選抜(一般公募)および社会人選抜
「小論文」出題のねらい

1. ねらい

1) 問 1

本問は以下 3 点を問うことをねらいとしている。

- (1) データを的確に把握できているか
- (2) 把握した結果を適切に回答できているか
- (3) 問を理解し、設問への回答のみ記述できているか (問と回答の整合性)

2) 問 2

本問は、問 1 にて図を的確に読み取れていることを前提に、受験者が国内外の様々な情勢や状況を踏まえ、これからの日本社会の展望について、現状や課題を含めて論理的に記述することを問うている。看護職は他の社会集団の傾向とは異なり、現状では生物学的には女性に属する人が多数を占める集団である。このように、生物学的な性別の一方が大多数を占めるような社会、コミュニティの現状や課題から、セクシャリティに限らず多様性を包摂する共生社会に向けた今後の展望についても記述されることが望ましい。

2. アドミッションポリシーとの対応

1. 大学で看護学を学ぶために十分な基礎学力を有する人

: 看護学を学ぼうと、また看護を实践するうえで、社会の様々な現象に興味、関心をもち、さらには疑問を持ちながらそれらの疑問を主体的に探究して自ら課題を提起し、新たな発想で自身が定めた問を解明していく能力が求められる。これらを実行するには、受験で身につけた狭義の学力にとどまらず、多方面に関する基礎的な学力や知識、探求心が必要となる。

4. 人や社会と関係を築く力

: 看護学は、人々の健康に関わる課題解決に向け、多様な場に属する人々や組織、機関との良好な関係を構築するための策やシステムづくりを探究する学問でもある。また、看護を实践する場では、人々の健康に関わる課題解決に向け、社会やシステムを看護学の観点から構築することが求められる。つまり、看護学を探究するうえでも、看護を实践するうえでも、人々が求める「健康」を獲得、あるいは維持できるよう、その実現に向け、多様な場に属する人々や組織、機関と協働しながら、包括的に社会をとらえて働きかけていくことが求められる。

【アドミッションポリシー】

1. 大学で看護学を学ぶために十分な基礎学力を有する人
2. 主体的に学ぶ姿勢を有する人
3. 看護への強い関心を有する人
4. 人と社会へ関心を持ち、関わろうとする人